

市政に対する一般質問

市民本位の市政を目指す 笠間市政の具体的考えは

みらい政策会議 安藤多恵子

問 本市では五つの都市宣言をしているが、内容が伴っていないか、宣言からスタートするという考えで行ったと認識している。各宣言には内容にふさわしい実行計画が必要だと思いがどうか。インターチェンジの設置は今年度末の検討結果を市民に開示し議論を高め判断をするとしているが、一方で県知事に設置を強く要望したことの整合性を市民にどのように説明するのか。また、市長室を一階に設置することやすぐやる課の設置よりも前に、ふれあいとくなどを直直して市民の声を最大限に吸い上げる方が大事だと思いが。

答 都市宣言は事業展開のきっかけづくりになるものと認識しており、市民ニーズを見極めながら事業展開を図っていききたい。綾瀬インターチェンジ設置促進連絡協議会は広域組織であり、要望書の提出は年間事業計画として採択されていたものである。インターチェンジは、広域的には必要と認識しているが地元市として市民、議会、行政が協議を重ねる方法で方向性を決定していききたい。また、すぐやる課は迅速な市民対応ができるよう、設置による職員の意識改革が重要と考えている。

(他に「基地問題における姿勢と手法について」「市民活動の活性化について」を質問)



9月29日に消防本部訓練場にて開催された第18回綾瀬防火協会初期消火競技大会。市内各事業所の代表選手が日頃の成果を競いました

市政の継続性と緩やかな変化で柔軟に政策展開しては

あやせ市民会議 石井 茂

問 市の政策は中長期的視野で決定され、急激な変化に対応しづらい面がある。財政面では費用対効果の概念も大事であるが、自治体の責務として経済効率を度外視した考えも必要であり、市政運営には継続性と緩やかな変化が必要では。公約は守るべきものであるが、自治体の存立基盤も激動している現在では変化の状況に則した政策への転換も必要である。首長の最大責務は市民が安定した経済活動をするための枠組みづくりや市民生活向上の多様な可能性を創出することであり、現状や公約のみに固執することなく、柔軟に政策や施策を展開していくべきでは。

答 市政の継続性を維持すること

は、行政が市民生活を停滞させることなく市政を運営していくために大変重要であるが、手法や手段を変えることで違った事業展開を図ることができると考えている。市民と行政が互いに問題意識を持ち共通の目標に向け協働の姿勢で取り組むことで新たな展開が図れるような市政運営を目指す。公約については市民と交わした約束と認識しており、これらの実現が活気あるまち綾瀬とする近道であり、企業経営手法であるコスト意識を取り入れ最少の経費で最大の効果が発揮できるように効果的・効率的な行政運営に努めていく。

経費節減のため市長専用車やバスを借り上げにしては

あやせ市民会議 増田淳一郎

問 市長の選挙公約に、市長専用車の見直しとあったが、市長専用車の見直しと見直しをするのか。現在、市の専用車には、乗用車三台、バス三台の合計六台がある。経費節減のための見直しと思うが、それならば、六台すべてを見直すべきではないか。見直すに当たっては市で車を持たず、乗用車についてはタクシー会社をハイヤーを、バスについては民間バスを借り上げるように検討しては。また、日常、職員が使用する

9月28日に開催された初心者ママのつどいでは、「あかちゃんとおかあさんのふれあいあそび」をテーマに27組の親子が楽しいひとときを過ごしました。入市保健医療センターにて。

る共用車両も多数あるが、四人以下の乗車利用が多いと思われるので、維持費の安い軽自動車に移行しては。

答 経費節減、環境への配慮の観点から、現在使用している市長車を来年七月に低公害車に切り替えたいと考えている。ハイヤーや民間バスの借り上げについては、バス等の耐用年数が三〜五年ほど残っており、また、運転業務職員の見直しを平成十五年に実施したところであり、専用車両の耐用年数の状況や職員の再任用時の対応を考慮する必要があることから、費用対効果を考えながら、将来に向け調査研究をしていきたい。なお、共用車両については、環境に配慮した低公害車で、実用的な軽自動車に順次切り替えている。

(他に「防災関係全般について」を質問)

ワンコインバスの導入による新路線の研究を望む

あやせ市民会議 青柳 慎

問 今回の市長選で市長が掲げた公約のうちワンコインバスの導入について伺う。駅のない本市はバス会社から見るとバス路線網はかなりよく発達していることだが、公約のワンコインバスの導入は、現在実



施している市内循環バス運行事業と切り離して考えていくのか。また、バス利用困難地域であり、なおかつ、高齢化が進んでいる上土棚北の住宅地から行政境、玄正橋を通り、綾瀬中学校付近に向かう市道十六号線を抜け、綾瀬中郵便局前を通り、市の中心部に向かうことができるミニバ

ス等、既存バス路線と競合しない新たな路線も研究してはどうか。
答 現在、本市では、神奈川中央交通と相鉄バスの二社により、各地域から最寄駅に向かう路線バス網を構築しており、おおむね地域のニーズにこたえていると考えている。しかし、市の中心部へのアクセスは、十分な状況でないため、市民の意見を聴きながら無料の市内循環バスを一部有料のミニバスと併用して拡大発展させたい。これら本市のバス交通のあり方からミニバス導入の導入までを先日発足したバス交通検討市民会議で検討している。なお、市道十六号線沿いのバス利用困難地域については、一日も早い解消に向けて努力していく。

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。
9月定例会では、9月16日・17日の本会議で16人の議員から質問が行われ、終始熱の入った論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、6面まで続きます)。